第53回放送番組審議会議事録

１.開催日時
2024年10月21日(月)

２.開催場所
富山電気ビル5階 中ホール

３.出席者
出席委員（敬称略）
委員長
長尾治明（富山国際大学　名誉教授）
副委員長
今川清司（富山商工会議所産業振興部　部長）
委員
中田至彦（富山市企画管理部広報課　課長）
押川実恵（北陸ミート株式会社　代表取締役）
武内孝憲（株式会社牛島屋　代表取締役社長）
原井紗友里（株式会社Oz Links　代表取締役）
舟本幸人（富山県芸術文化協会　副会長専務理事）
水上庄子（富山ユネスコ協会　副会長）

４.議題
- 2024年度上期の自主制作番組について
- 番組視聴

①富山大空襲 記憶のバトンタッチ（2024年7月23日放送）
②おまつりニッポン 全日本チンドンコンクール（2024年6月8日放送）
- 前回審議会でのご意見に対する取り組み
- 自主制作番組全般について意見交換

【主な意見】

◇視聴番組について

▽「富山大空襲 記憶のバトンタッチ」

・市民が富山大空襲の惨禍をどのように語り継いでいくかが大切で、それをこの番組が伝えている。

一年以上かけて取材しており、見応えのある内容だった。

・街並みなど現在の富山市を語るとき、空襲があったことは避けられないポイントだが

世代によってはその意識が薄い。語り継ぐ団体や場所はまだあり、取材を続けてほしい。

・空襲経験者の言葉は重みがあり、胸が締め付けられる。生の声を収めることは意義がある。

８月１日の花火に鎮魂の思いをはせる若い人が増えていくことを願う。

・経験者の言葉から空襲がどんなに恐ろしいことなのかが伝わる。語り継いでいこうという高校生の部分で

明るさ（希望）も出ている。平和への願いにつながる番組で、たくさんの人たちに見てもらいたい。

記憶のバトンを落としてはならない。

▽「おまつりニッポン 全日本チンドンコンクール」

・「富山大空襲」とともに富山市の CATV 局であればテーマに取っていくべき内容だ。

なぜチンドンが始まったのか触れられていたが、地元でも広く知られていないことがあり、

今後も取材を重ねてもらいたい。

・チンドンというアナログな広告手段は、現在の若い人たちにとって面白いのではないか。

今年で第70回だったイベントが80回、100回と続くようにこれからも全国に魅力を発信してほしい。

・番組に登場した人以外にも富山にチンドンマンはいる。取材して番組を作ってもらいたい。

◇その他の意見・要望など

・子育て世代向けに各種体験や遊べる場所、行政情報を紹介するコーナーがあればいい。

地元密着のＣＡＴＶだからこそできる。

・働く母親を応援する番組が過去にあった。同様の番組を考えてほしい。

・首都圏の強盗事件など、高齢者が日常生活や生きていく上で参考になる番組を制作、編成してほしい。